



世界に希望を生み出そう

RI 会長：ゴードン R. マッキナリー

2620 地区ガバナー：中村 皇積

会長：渥美 聡一郎 幹事：志賀口 裕輔 会場監督：内山 義之

例会：毎週金曜日 19:00 ~ 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2024年3月15日（金） 晴 第1651回例会 週報 NO. 27

司 会：竹内 公一会場監督補佐
点 鐘：渥美 聡一郎 会長
ロータリーソング「我らの生業」

ゲスト

地区米山記念奨学委員長

渡辺 郁様 （甲府南 RC）

会長挨拶



今日は地区の方からの依頼もあって、地区米山記念奨学委員長の渡辺様にお越しいただいています。ロータリー歴の浅い会員の皆様は、どういう事業をしているのかまだ知らない部分もあると思いますので、非常に参考になるはずですので、宜しくお願いします。

本日は 100%出席例会で、委員長植山さんは気合が入っていたのですが、体調を崩されて顔だけ出してすぐ帰られました。暖かくなってくる時期ではありますが、ほかにも体調を崩されている方がいるようです。どうぞご自愛ください。

先週の続きになりますが、山口貴司名誉会員にお礼を兼ねて電話をしました。非常にお元気で、4月にはまたネパールに行かれるそうです。お土産話も聞きたいと思っておりますので、年度中にお呼びする予定です。

クリスマス例会の際に演奏して

くれた浜松少年少女合唱団が 4 月 28 日に定期演奏会を開くそうです。その協賛を頂けないかという話がきました。資料を回覧しますので、ご協力いただける方はお願いします。

幹事報告



・回覧・・会員手帳の校正
浜松少年少女合唱団協賛

委員会報告

☆三輪久夫 会員増強委員長

4 月 5 日の例会は入会式を行います。その後恒例の歓迎会を行いますので、ぜひご参加ください。



スマイル

♪渥美聡一郎さん、志賀口裕輔さん

本日は地区より米山記念奨学委員長の渡辺郁様をお迎えして卓話をしていただきます。宜しくお願いします。

♪川井啓介さん

今日は地区の RLI 委員会で共に励んでいる甲府の渡辺郁さんの卓

話です。遠路はるばる浜松までありがとうございます。皆さん宜しくお願いします。



♪佐藤芳一さん

先週血液検査に行って、γGTP が正常値に戻り、ドクターストップが消えました！



卓話

「米山記念奨学事業について」



地区米山記念奨学委員長 渡辺郁様

昨年の浅原年度から、このわかりにくい事業を説明するために直接クラブを回っています。浜松中 RC の皆様には日頃よりご協力を頂いております。ありがとうございます。

「ロータリー米山記念奨学事業」は、ロータリーが目指す国際理解と親善、世界平和に寄与することを目的としています。1952 年東京 RC の奨学事業（米山基金）構想を踏まえ、わずか 5 年で日本全国の共同事業へと発展しました。1967 年に文部省（当時）を主務官庁とする財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立（2012 年公益財団法人へ移行）され、歴史的にも世界に類を見ない日本のロータリー全 34 地区の合同プロジェクトとして現在に至っています。設立から一貫して国を問わず外国人留学生を支援しています。米山記念という冠は、米山梅吉翁の名前に由来していますが、米山梅吉翁が始めた事業ではなく、1946 年に米山梅吉翁が亡くなられた後、その偉業を讃え、その奉仕の精神を受け継ぐべく名付けられています。そこには二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがありました。構想から本年で 70 年になりますが当時の想いは今も脈々と受け継がれています。

ロータリー米山記念奨学会と他の奨学金との違いとして、①日本全国の会員の寄付が財源 ②事業規模は国内民間の外国人留学生奨学団体で最大 ③創立から一貫して外国人留学生を支援 ④世話クラブ・カウンセラー制度によるサポート体制の充実、以上 4 点を挙げることができます。最大の特徴は世話クラブ・カウンセラー制度で、奨学生一人に対し、ひとつのロータリークラブが「世話クラブ」となり、そのクラブのロータリアン 1 名が「カウンセラー」となり、留学生の相談役を務めます。奨学生はクラブの例会や奉仕活動に参加が義務付けられ、ロータリアンとの交流を深める中で、国際平和や奉仕の理念を学びます。米山奨学生は奨学金を受け取るだけで

なく、交流を大切にし、積極的にロータリーに参加する姿勢が求められます。

米山記念奨学生の選考にはルールがあります。まず地区内にある指定校からの推薦が必要です。奨学会で許可された指定校が、米山記念奨学生として相応しい学力とコミュニケーション能力を持つ学生を選定し応募します。その後、全国統一の書類選考、面接選考を経て、最終的に毎年全国で約 900 名程度を採用しています。（2023 学年度は全国で 880 名、うち新規採用は 623 名、当 2620 地区割当は 27 名、うち新規採用は 18 名）。全国統一の基準としては、【将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか】【交流への熱意があるかどうか】【人柄の良さ】【コミュニケーション能力の高さ】＋【地区裁量】として、日本語で意思疎通できる、もしくは日本語での会話に意欲ある学生。学問、研究に今後も積極的に取り組む姿勢がある学生。ロータリー活動に関心を示しかつ積極的に協力し、将来日本と母国との親善を深めようとする学生などを優先しています。

普通寄付金と特別寄付金について、米山記念奨学事業への寄付は二通りあります。①普通寄付金：日本の全ロータリアンからの定期寄付でクラブが金額を決められる。半期に一度、会員数分を送金する。当地区は 4,000 円以上。②特別寄付金：個人、法人、クラブから普通寄付金以外の任意寄付。金額の決まりはなく、ロータリアン以外からも受付けている。当地区は 12,000 円以上。地区の目標寄付額は、普通寄付と特別寄付を合わせて、一人年間 16,000 円以上。

寄付実績 (個人平均)

	全国平均 (2022-23年度)	2620地区 (2022-23年度)	浜松中RC (2022-23年度)
個人平均寄付額	16,960 円	15,485 円	17,571 円
普通寄付金	4,884 円	3,857 円	4,285 円
特別寄付金	12,076 円	11,628 円	13,285 円

結びとして、ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリアンの善意で成り立っています。皆様からいただいた寄付金はクラブでの奨学生の受け入れに関わらず、全国の奨学生を支援する為に使用させていただいています。コロナ、円安、資材高、人材不足等の影響で経済が圧迫され皆様方の企業も大変な環境下におかれていると思います。こんな時代に外国人学生を面倒見るのは“どうか”とか、寄付は“ちょっと”と思われるのも当然だと思います。しかし、戦後の 1952 年、国際平和を願った当時の日本のロータリアンは「こんな時だからこそ何かできることはないだろうか」と模索し、心を合わせてこの事業を始められました。そんな時代の節目である今だからこそ、これまで日本のロータリアンが少しずつ築き上げてきた平和への願いである本事業を支え、次の時代につなげていかなければならないと強く思うと同時に、民間外交としてこれからも世界に平和の架け橋を数多く架け、平和を求める日本のロータリアンの意思と絆を世界に伝えていけたらと思います。

浜松中ロータリークラブの皆様におかれましても、今後ともお力添えをお願いいたします。本日は卓話にお招きいただき、誠にありがとうございました。

*** 出席報告 ***

発表：杉本靖和 出席委員

会員数	41 名
出席者数	20 名
出席算定会員数	34 名
出席率	58.82%

前々回出席者数
34 名
前々回出席率
97.14%

